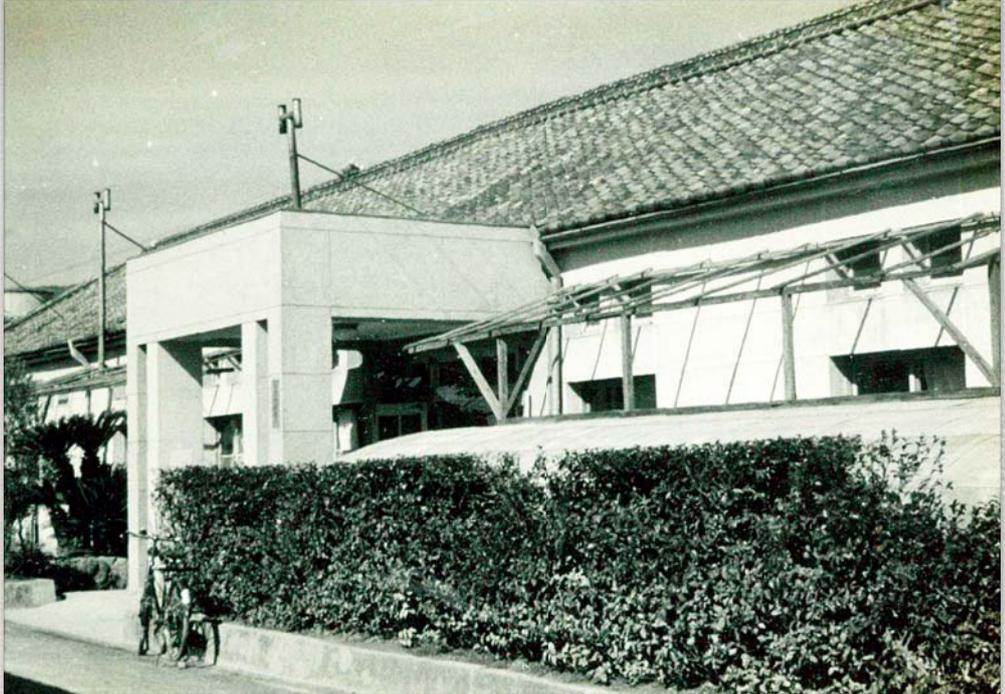




このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

三豊中央病院
年代未詳・豊中町

昭和26(1951)年に桑山村・比地大村・笠田村・上高野村・本山村の5カ村組合立の病院として、三豊中央病院が開業する。昭和30(1955)年の5カ村合併、昭和32(1957)年の町制施行により、豊中村立、豊中町立の病院として運営される。昭和41(1966)年に改築されるが、昭和44(1969)年に廃止となる。現在のJA香川県 豊中支店の位置にあった。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「写真の建物は三豊中央病院の診療棟ですね。建物の奥に5つの病棟が連なる大きな病院でした」と語るのは、当時、病院の事務をしていた豊中町の田井昭さん(85)。

「三豊中央病院は、豊中5カ村の組合立病院で、現在の観音寺市にある三豊総合病院や詫間町の永康病院よりも早くに開業しました。開業当初の診療科目は、外科、内科、産婦人科、小児科、耳鼻科の5つで、当時としては設備も整っていたと思います。病院では7人の医師と30人ぐらいの看護師が働いていましたね。なかでも、外科が専門の院長先生は、腕が良いと評判で、永康病院や三豊総合病院から応援要請がよく来ていました。医師不足でしたが、相互に連絡をとりながら、うまく機能していたと思いますね」

また、この頃は救急車が無い時代で、交通事故だけが人が出ると、現場近くの家から直接病院に電話がかかってきました。「事故の電話を受けるとすぐ、病院の往診用の白いワゴン車に運転手、医師、看護師が乗り込んで事故現場に向かっていました」

た。ストレッチャー(折り畳み式の担架)も搭載し、重傷者には、医師と看護師で患者の応急手当をしていました。

運び込まれた患者さんが、病院で治療を受け回復し、元気に退院する姿を見たときは、先生の偉大さと、身近にある病院の大切さを実感しましたね」

しかしながら、地域に愛されたこの病院も、改築に伴う負債と医者不足などの理由から、借しまれながら昭和44年3月に廃止しました。田井さんは、この病院が今も残っていれば...ととても残念そうでした。

編集 後記



特集の取材で3人の若い農家の人にお会いしました。3人とも農業を新たな職業に選び、自分の目指す農業ビジョンを掲げ、誇りを持って日々の仕事に邁進しています。11月27日(日)に開催される軽トラ市には、彼らのような農家などの生産者が大集合し、皆さんを待っています。ぜひ、生産者との楽しい会話をお楽しみください！